

登山客へマナー啓発 白神山地世界遺産地域合同パトロール！

厳しい夏の暑さも和らぎ始めた 9 月 13 日、白神山地では青森県、西目屋村、深浦町、消防、警察、環境省、林野庁による世界遺産地域合同パトロールが行われました。入山者へのマナーの啓発や登山道の点検等が目的です。パトロールは西目屋村にあるブナ林散策道、高倉森登山道、深浦町にある白神岳登山道の 3 か所で行われ、私は白神岳登山道のパトロールに参加しました。

13 日の午前 7 時に登山口に集合し、ミーティングでは、天気予報はあいにくの雨となっているため、目的地を白神岳から蛭山（まてやま）へと変更しました。登山口を出発するとすぐにブナの大木（写真①）が現れ、幹の隙間に置かれた護符とともに、神聖な雰囲気を感じていました。さらに進んでいくと古い木製の階段があり、踏み外さないように、一歩ずつ確実に進んでいきました（写真②）。道中すれ違った登山客にはパンフレットを渡し、マナー啓発を行いました。

登っては休憩を繰り返し、蛭山山頂には 10 時ごろに到着しました。山頂では強風が吹き荒れ、非常に寒かったです。道中ゴミがないか確認していましたが、蛭山山頂でウイスキーの瓶を発見しました（写真③）。冬山登山中に瓶が雪に埋もれて見えなくなってしまったのかもしれませんが。帰り道では登山道沿いのナラ枯れ被害木の調査を行いながら帰りました。深浦町ではナラ枯れ被害が多く発生しており、登山道沿いでも根元にフラスと呼ばれる粉が溜まった被害木が散見されました。（写真④）。登山客の安全のためにも危険木の調査を行っていきます。

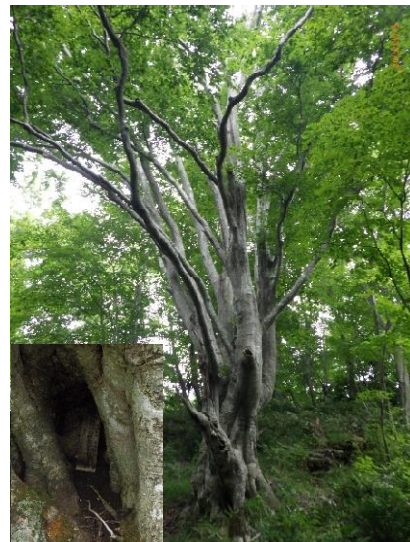
今回のパトロールではウイスキーの瓶をはじめ、お菓子の包装も落ちていました。また、樹皮に登山の記念に付けられたような傷がある樹木もありました。白神山地の自然を守っていくためにも、このような行為がないか今後もパトロールを通じてマナーの啓発をしていきます。

これから涼しくなるにつれてブナの黄葉が

きれいな時期となり、登山する方が増えるかと思います。楽しく登山をするためにも、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

津軽森林管理署 森林育成・ふれあい担当 猪股龍希

写真①ブナの大木と護符



写真②注意しながら進む一行



写真③蛭山のウイスキーの瓶



写真④ナラ枯れ被害木のフラス

